

令和7年度事業報告書（いなばエリア）

1 令和7年度総括(成果、反省等)

1) 収支・人員状況

赤字事業所の収支改善、人財の効率的配置等、エリア全体で事業再構築に注力するも、対予算、対前年ともに大幅未達。今後更に深刻化する人員不足に対応しつつ収益を確保するため、更に事業の選択と集中を加速させる必要がある。

2) オールいなば体制の構築

(1) 生産性向上と組織強化：

効率的な事業運営を目指し、通所事業の再編や柔軟な職員応援体制（ヘルプ体制）の構築、ICT 機器導入による効果測定事業への参画など、生産性向上に向けた具体的な施策を推進した。同時に、委員会組織や役職者の役割分担を再定義し、経営指標の「見える化」を図ることで、エリア一丸となった管理体制を強化した。

(2) 老健機能の見直し：

地域医療構想、診療報酬改定により役割が大きく変化する介護老人保健施設について、抜本的な見直しに向けた検討を開始。次年度からの転換に向けた体制移行に着手。

(3) 相談室によるサービス間調整：

ICT を活用し全事業所の利用者情報を相談室へ集約、最適なサービス提供を可能にする横断的調整システムの構築を開始。一方、医療機関や他法人との連携強化は道半ばであり、次年度はさらなる関係性の深化と紹介受入の促進を最優先課題として取り組む。

3) 地域へのアウトリーチ

開設 30 周年を機に、地域へのアウトリーチを再構築。鳥取市、鳥取市社会福祉協議会と共に浜坂地区における「地域食堂」立上げを支援。併せて鳥取北地域包括支援センターでは、地域住民を対象とした「きたカフェあきさと」を、湖東地域包括支援センターでは地域ショッピングセンターであるスーパーマーケットと協力し「湖東包括カフェ」を定期開催。

2 トピックス(新規事業、重点実施事業等(独自で実施している地域貢献活動含む))

1) 開設 30 周年記念事業の開催

令和7年7月17日に開設30周年を迎えたことを受け、これまでの歩みを支えていただいた地域住民へ感謝を込めて記念行事を開催。

- ・ 記念植樹（7月17日）「感謝」の花言葉を持つハナミズキを植樹
- ・ 記念式典（7月25日）初代総合施設長加藤一吉様を来賓に迎え、エリア発展の歴史を振り返るとともに、廣江研会長はじめ参列した役職員一同、法人の原点と使命を再確認する厳かな式典となった。
- ・ 30周年感謝祭（7月26日）廣江晃理事長の「一つのゴールを次のスタートへ」という力強いメッセージとともにイベントを開催。事前準備から当日運営まで、職種の垣根を越えた「オールいなば」で地域住民をおもてなし。

2) 浜坂地区地域食堂「まごころ食堂」立上げ支援

鳥取市が地域福祉推進計画で進める「地域食堂」につき、地域食堂が無い浜坂地区での立ち上げを支援。鳥取大学地域学部地域学科竹川俊夫教授ご指導のもと、鳥取市中央人権福祉センター、鳥取市社会福祉協議会、麒麟のまち地域食堂ネットワークと検討を重ね、地域住民が主体となった「まごころ食堂」を10月に立ち上げ。誰もが安心して温かい食事をとれる場所づくり、誰もが安心感を持って暮らせる地域づくりを目指し年度内に3回開催。当法人は社是である「互恵互助」を体現するため、専門的立場からのサポート役に徹し地域住民主体の持続可能な運営基盤構築を全面的に支援している。なお、同趣旨に賛同いただいた取引業者、地域住民からのボランティア、食材提供、ご寄附もあり順調な滑り出しが出来ている。

第1回（10月25日）：32名参加

第2回（12月13日）：41名参加

第3回（3月14日）：48名参加

- 3) 鳥取北地域包括支援センター受託継続。6月から8月にかけて開催された公開プロポーザルにおいて選定1位で継続受託が決定
- 4) 第30回こうほうえん法人研究発表にいなばリアから20題発表。内3題奨励賞受賞

3 エリア目標の達成度合とその評価(戦略会議の資料等)

1) 地域連携室を中心に事業所間のつながりを強くする

相談室が全事業の利用者情報を集約し、サービス調整を行う仕組みを構築しています。Google Workspaceの試行により相談・適性サービス移行の一元管理が進み、他事業所のチーム会議への参加を通じてエリア内の課題抽出も行っています。今後は、実データに基づく「見える化」と追跡の強化に取り組みます。

2) 今の事業を再構築する

老健の体制見直しプロジェクトを定期開催し、従来型から強化型への統合・移行の方向性が決定しました。通所事業においては、5事業所での機能分担や再編に向けた検討を進めています。一部事業所で稼働率が未達成となり収支改善に課題を残したため、次年度はさらなる改善に努めます。

3) サービスを止めない仕組みを作る

係長以上の役職者を対象としたエリアBCP机上訓練を実施し、災害時等の実効性を高める取り組みを行いました。また、ボイラーや浴槽故障などのトラブルを想定し、実践を通じてバックアッププランへの反映を進めています。今後は、より実戦に即した訓練の深掘りと、計画のブラッシュアップを継続します

4) 地域との関係を再構築する

・地域食堂の無かった浜坂地区へ働きかけ、中央人権福祉センター・麒麟のまち地域食堂ネットワーク・鳥取市社会福祉協議会協力のもと、地域食堂（まごころ食堂）を立ち上げることができました。住民主体のボランティアの方を中心に江津公民館を拠点に3回開催しました。今年度は毎月開催を予定し浜坂地区の様々な場所での開催を目指してサポートを行ってまいります。

・地域の認知症見守り応援団の登録をしているスーパーマーケットにて、出張相談会（健康福祉なんでも相談会）を定期的実施しました。地域の企業と連携を図り、健康・福祉に関する啓発活動を展開することで、地域住民の関心も高まり介護予防に繋げることができています。次年度も、地域住民が抱える困りごとを、いなばこうほうえんが解決を支援する関係を継続していきます。

5) 新しいサービスの基本をつくる

・ユマニチュード導入によるケアの変化と実践の広がり

昨年度は、ユマニチュード導入三カ年計画の1年目として、哲学理解と共通言語の浸透を目標に取り組み、当初掲げた目標を概ね達成することができた。9月8日の導入研修を皮切りに、西大井からの来訪研修等も実施し、延べ127名の職員が参加した。研修や現場での実践を通じて、「見る・話す・触れる・立つ」といった基本的な関わりを意識したケアが広がり、ユマニチュードの考え方が現場に根付き始めている。今後は実践の質を高め、組織全体へのさらなる定着を図っていく。

6) 全職員のノウハウを集めた全職員が学べる環境をつくる

・介護福祉士実務者研修受託

11月26日から翌年5月25日までの116日間にわたり実施した。受講者11名に対し、講師として延べ約130名の職員が関わり、法人全体で人材育成に取り組む体制を構築することができた。受講者の資格取得支援にとどまらず、教える立場を担う職員の育成や専門性の向上にも寄与しており、組織全体の教育力強化につながっている。

・ミャンマー人財の段階的な育成計画実施

ミャンマー人財（1期生・2期生）について、アルバイトによる軽作業から、社会福祉専門学校卒業後の直接介護業務へと段階的に移行する育成計画を策定し、計画に基づいた育成を実施した。業務内容や役割を段階ごとに明確化することで、無理のない成長を支援するとともに、現場への円滑な適応を促進している。

7) サービス提供に支障なく職員も働きやすい環境を作る

拠点を越えた検討や、特養での階層別一体勤務表の作成により、残業時間の削減が進みました。エリア生産性向上推進委員会も発足し、ICT活用のノウハウ共有を開始しています。今後も適正な人員配置の見える化と、ICT環境の推進を行います。

4 入所系事業所(デイハウスは登録人数)の稼働率の推移(稼働率:小数点第1位)

事業所名	定員(人)	令和7年度(%)	令和6年度(%)	令和5年度(%)
介護老人保健施設いなば幸朋苑	80	86.8	89.3	89.0
ユニット型介護老人保健施設いなば幸朋苑	20	87.8	90.7	87.6
小規模多機能型居宅介護 デイハウスじゅんぷう	25	71.6	89.0	96.3

ケアハウスいなば幸朋苑	50	91.3	92.3	90.0
生活支援ハウス いなば幸朋苑	20	98.7	99.0	99.0
介護老人福祉施設新しいな ば幸朋苑	50	98.0	96.1	98.2

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	<ul style="list-style-type: none"> ○いなば幸朋苑 ・ 7/25-26 開苑記念
BCP 等訓練実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○いなばエリア ・ 6月20日・11月25日・3月17日
エリア内研修状況	<ul style="list-style-type: none"> ○新人職員研修 ○感染対策研修会（感染予防・手洗い） ○緊急時の対応研修会 ○法令遵守・プライバシー保護研修会 ○リスクマネジメント研修会 ○BCP（事業継続活動）非常災害時の対応研修会 ○身体拘束・高齢者虐待研修会 ○接遇・コミュニケーション研修会 ○AEDの使用法研修会 ○看取り研修会 ○感染症対策研修会（食中毒・手洗い・ガウンテクニック） ○リスクマネジメント研修会 ○介護予防研修会 ○腰痛予防・ノーリフティング研修会 ○ユマニチュード研修会
エリア内会議、委員会活動	<p>【月例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連携会議 ○人財会議 ○看護師会 ○教育研修委員会 ○苦情対策委員会 ○リスクマネジメント委員会 ○ノーリフト委員会 ○ICT/DX委員会 ○生産性向上委員会 ○定例会 ○安全衛生委員会 ○主任会 <p>【定期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染対策委員会 ○苦情解決第三者委員会（2回/年） ○ISO委員会 ○身体拘束適正化委員会

	<p>○褥瘡部会 ○ふれあいの橋の会 ○給食委員会</p>
<p>委員会活動等の 成果・実績・反省</p>	<p>○リスク委員会 令和6年度と比べ令和7年度は1レベルの件数が大幅に増加 R6年159件⇒R7年198件 39件増 2レベルの件数は大幅に減少。 R6年90件⇒令和7年58件 32件減 この結果から、1レベルの増加は職員の意識が高まり、些細な事例も見逃さず報告するようになったポジティブな側面があると考えられます。2レベル2の減少からは、2レベルに分類される前の段階で事故を防げるようになった可能性を示唆している。しかし、重篤な5レベルは、令和6年1件・令和7年2件と増加しており、極めて重篤なインシデントを引き起こす可能性のある要因について、改めて分析と対策の強化が必要となる。いなばエリア5レベルは全て窒息となっている</p> <p>○教育研修委員会 令和7年度の研修参加職員数（延べ）は2,101名となり、令和6年度の1,635名と比較して約29%の増加となった。 要因としては、従来の集合研修に加え、Zoom等によるオンライン研修が定着したこと、さらに部署内研修の実施回数が増加したことが挙げられる。 エリア内研修においても、Zoom研修とeラーニングを併用することで、会場に来られない職員も参加できる体制を整備することができた。</p> <p>○ISO委員会 横断内部監査（R7.7）、サーベイランス審査（R7.11）内部監査（R8.2）を実施。令和7年度は令和6年度と比較し、所見件数19件増（令和6年度B所見：1件、G所見：21件、0所見：9件、令和7年度G所見22件、0所見28件）。全事業の品質向上を目的とし、他事業所との共通課題は水平展開する視点で監査を実施し、指摘件数は前年度より増加した。令和8年度は、ISOの基本に立ち返り、エリア全体の再発防止と品質向上、標準化の視点に焦点を当て、活動を展開する。</p> <p>○ICT/DX委員会 Google Workspaceを活用し相談業務の標準化と見える化を推進した。相談情報の一元管理と可視化により、平均対応日数30日以内を達成したほか、担当者不在時の対応困難は100%改善、情</p>

	<p>報入力の手間も 70%軽減した。業務効率化と連携強化に寄与した。</p> <p>議事録作成ソフト「noman」については、2025年6月の全事業所利用時間16時間から、2026年3月には167時間へと増加し、約944%の伸びとなった。各事業所での活用が進み、一定の定着が図られたと言える。</p> <p>○看護師会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人看護師会主催研修【感染対策予防研修】17名参加。 ・法人看護師会年間計画【誤薬対策強化】主任会と連携し全部署で下半期に配薬チェック・ラウンド実施。 ・看護師不在の部署への相談・指導対応時実施した。(ノロやMRSAなど感染対応、受傷時の対応相談など。 ・次年度は各部署間伝達の仕組みを検討、専門職としてスキルアップできるよう学習の機会を作りたい。 <p>○褥瘡部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種チームで各拠点を6回ラウンド実施。現場職員へその場での指導、ラウンド用紙を部会メンバー・主任へメールで共有した。 ・次年度は現場で知識を活用できるよう、ラウンド結果についてのケア検討、褥瘡についてメンバー中心に学習機会を設けたい。
--	---

6 人財状況

外部研修等講師派遣実績	<p>○介護技能実習評価試験 試験評価 評価者 石井 陽介 中村 有希</p> <p>○福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 森山 大介</p> <p>○明和会医療福祉センター渡辺病院 院内研修 森山 大介</p>
外部役職就任状況	<p>○鳥取市地域福祉推進委員会委員 藪本 剛</p> <p>○鳥取県介護保険審査会専門調査員 中野千香子</p> <p>○鳥取県東部広域介護保険認定審査員 池本 圭子</p> <p>○鳥取市認知症初期集中支援チーム員 岸 清志</p> <p>○鳥取県東部医師会裁定委員 岸 清志</p> <p>○鳥取県言語聴覚士会 理事 赤峰 孝宏 森田 愛</p> <p>○鳥取県小児保健協会 理事 森田 愛</p> <p>○東部保健医療圏地域保健医療協議会委員 森田 愛</p> <p>○鳥取県栄養士会 災害対策部運営委員 小倉久美子</p> <p>○鳥取県栄養士会 調査研究部運営委員 前田 祥子</p>

	○鳥取県介護支援専門員連絡協議会東部支部理事 山根 樹美
外部表彰受賞状況	なし

7 地域貢献実績(保育園含む)

実習受け入れ実績 延人数 298人	介護実習科、鳥取市医療看護専門学校、社会福祉専門学校、鳥取県看護協会、鳥取県立看護専門学校、鳥取市立北中学校、鳥取市立中ノ郷中学校、鳥取県立緑風高校、鳥取市立西中学校、鳥取県庁、青翔開智高等学校、美作大学、鳥取県訪問看護支援センター、鳥取公立環境大学、鳥取大学、大阪健康福祉短期大学、鳥取県立琴の浦高等特別支援学校、鳥取県社会福祉協議会
ボランティア受け入れ実績 延人数 134人	あさひが丘教会、鳥取市介護支援ボランティア、個人、POLA、鳥取県立東高等学校、鳥取私立城北高等学校、鳥取県庁、鳥取県立湖陵高等学校、安心介護相談員、鳥取県立鳥取看護専門学校、インマヌエル教会、用瀬流し雛
見学受け入れ実績 実人数 120人	申込希望者本人、家族、居宅ケアマネジャー
地域交流活動実績1 実施回数 8回 実人数 353人 延人数 353人	(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業) 湖山西公民館健康福祉相談、きたカフェあきさと
地域交流活動実績2 実施回数 1回 実人数 2人 延人数 2人	(地域の交流事業に利用者と共に参加したもの) クリスマス礼拝
ボランティア・環境活動等の実参加者数	(ボランティア・環境活動等に1回でも参加した職員数) 14人 / エリア職員数
ボランティア・環境活動参加実績1 投入実人数 14人	(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等) 浜坂地区防災訓練・湖東学習交流センター消防訓練 城北小学校資源回収・清掃ボランティア(鳥取北)
ボランティア・環境活動参加実績2 投入実人数 626人	(見守り活動・学校活動の手伝い等) 浜坂小学校はまっこパトロール
地域発信活動実績	出張相談会(サンマート湖山店)

(介護、看護の日、イベント開催等)	
地域発信活動実績 (認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターのみの活動は除く)	鳥取市立遷喬小学校 (1回 51人2人) 鳥取市立中ノ郷小学校 (1回 40人2人) 鳥取市立醇風小学校 (1回 51人1人)
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く)	城北ふらっとサロン (憩の家)、城北マルシェ、久松となり組推進員、賀露町上浜区集会所、美萩野集会所、伏野集会所、湖山集会所、ふれあいデイサービス、あけぼの会、湖山西地区、西日本環境設備、民生委員の会、湖山小学校、末恒小学校、賀露小学校、付属小学校、久松小学校、城北小学校

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル3以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	58件
	レベル4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル5	事故が死因となった場合	2
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) (ない場合の例)高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載) いなば老健施設でのコロナウイルス感染症発生 発症者数：合計42名(職員：8名、利用者：34名) 感染経路：2階から3階へ急速に拡大。12/7~12/27で終息		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	1件	13件	17件